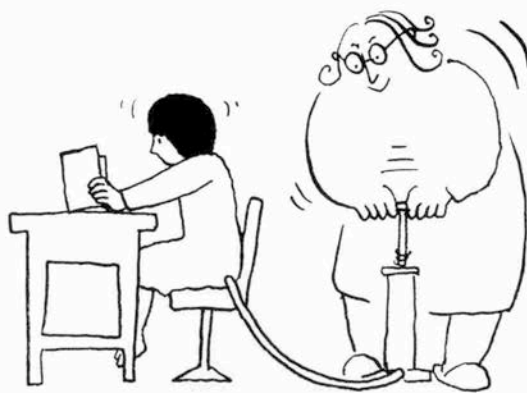
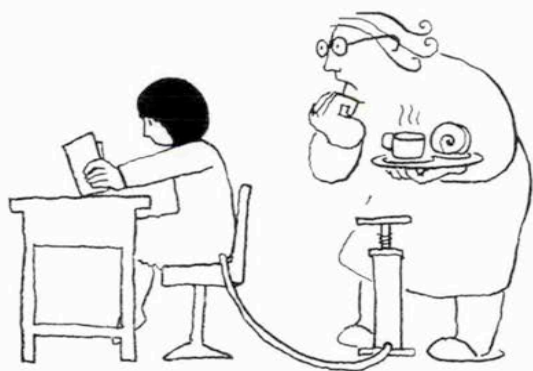


ママゴンにささげるバラード ②①
かわいそうなママ

岡田 淳





—T—



＜IX＞

結婚って なんだろうベエ

淀川 長治／映画評論家



結婚したい人は映画を見てはいけない。映画の夫婦とは、たいがい苦しみの連続である。

そのあげくに「結婚とは苦しい忍耐ではなく美しい忍耐である」とぬかす。

そもそも忍耐までして結婚する必要があるうか。

一人が一人を一生愛するなんて嘘だという人もある。

それがしように、もう赤ん坊を作るなんてうんざりですよ、

いまのおかみさんの寝姿を見て

いるとゾツとする。けれども……

とここでこの亭主はツバキを呑

みこんで若い女とならもう一ぺん

恋をしてもみたいなあ。

これでこの男は俗にいう（恋愛結婚）をした夫婦なのである。

結婚とはなんだろうベエ。つまり

は血のつながったガキを作っておかねば、という強迫観念から

かあるいは世間体のためか。

も掴んで再婚した。

「グッバイ・ガール」の女は十才の娘を持った亭主なしの女。つまり男に逃げられてばかりいる女。その女がつぎつぎと男を掴んではまたも逃げられ「また捨てられたわね」と娘に冷静に皮肉られる女。この彼女が最後についに男を掴む。ついに結婚。

「グッバイ・ガール」

ところが「アニー・ホール」の女は、男と同棲したが結婚しない。結婚を愛とは思っていない。

「結婚しない女」は一〇〇パーセント夫を信用していた女。

もう年ごろの娘までいる。それがその夫に女のできていることを

知ってびっくりした。夫は泣いて告白した。馬鹿な夫である。

それでキツパリと別れて、こんどはセックスだけで男を求め、

ついにその二人目の男に真実を見る。この男も子持ちの妻に

に去られた画家。これでハッピー

エンドと思いきや女は、もう結婚しないことにした。男は大

きな一枚の絵をのこして彼女から去っていった。その大きな一



枚の絵を道ばたで抱えてもてあましているところでこの映画は終る。

×

結婚って、なんだろう。どうもあちらでは(いい)とも(悪い)とも決断をくだしてはいない。

ようするに個人の問題ということで逃げている。結婚がはつきり悪ければ(するな)であろう。良ければ(せよ)であろう。ところがそのどちらにもつかないで(キミまかせ)の映画をそれぞれに生んでいるところに結婚への自由も匂う。

結婚への自由とはわかったようでわからぬ言葉だが、けっきょくは(良く)するのもアナタ、(悪く)するのもアナタ...ということか。ここが大切なのだろう。

×

ところが娘のとつぐ姿を見送った父の姿をしみじみと描いた「花嫁の父」や「ふたりだけの窓」のこれも息子が新婚の旅に出るうしろ姿を見送るその父や母の姿を見ると...夫婦の年輪の厚さがしのばれて苦労しても夫婦とはいいいものだなアと思えてくるのである。

×

かくてこれらのあらゆる映画から悟るところは、結婚とはどうやらやっぱり苦労をしてもやらねばならぬものとなる。

それは人間への神が示された試験。その答案をちゃんと書き上げることが(夫婦)という答え。

どうやら結婚しない...とい



うことは与えられた神の宿題をすっばかすことに思えてくるのである。つまり人間として落第ということになってくるのである。人間は子孫を造るべくして生れてきたモノ。その人間の繁栄のために結婚はある。

×

こう考えてくると結婚は恋愛だけではすまされぬ(仕事)になってくる。

この仕事をやりとげると老いて子供に手を曳かれ孫に抱きつかれる幸せが訪れる。

「結婚しない女」

ところが、このごろはいつまでたっても老けないで、子供に手を曳かれなくなってきた。子供も独立し親も独立する。こうなると結婚はその意味を失なう。親は子供を大きくする機械みたいな存在。だから結婚なんて、ということにもなる。

×

しかし学校とは実は人間その生涯が学校みたいなものである。

だから人間の宿題をほったらかすということに実に生涯が落第生みたいなサツカでなくうしろめたさに襲われるのである。

だから結婚しない、とはいえない。

優等生というものは気分のいいもの。落第生とはみっともないもの。

結婚で、それなんだろうか。

女体百景

天然の女

73

細川

た
た
董

〔文とえ／哲学者〕

「先生、

まあ一ぺん、だまされた思て輪島の女抱きに来てみて下さいよ。よろしおまつせ。九月か二月来てみなはれ」
「なんでその頃？」

「その時期は、輪島の男どもが北海道、東北あたりの漁場へ出かせぎに行きまんね。

この辺では船に乗るいいまんね」

「男が船に乗ったらどうなる？」

「先生、わかつてはるくせに」

「分らん」

「ようとほけて、」

主人の留守を女房どもがもてあましてよりますね。

三か月ぐらい主人留守でっさかい」

「その間、女どもはどうするの？」

「旅館の女中しまんね」

「なるほど……」

旦那の留守中に妻君が浮気するというわけ？」

「そうですがな。」

そやから九月か二月がええいうてまんね。

今からやったら九月やなあ。

大事にしてくれまつせ」

「そんなに大事にしてくれる？」

「七、八月はザコで一杯ですな。」

しかし、海水浴客が帰った九月から秋にかけてよろしで。

親切にしてくれまつせ」

「どこへ泊るの？」

「××ホテルをめざして来なはれ。」

そこで、S子かY子を指名しなはれ。

S子はみるからに好き者いう感じの大ベテラン。

そやけど美人でっせ。ちよつと年いつてるけど。

Y子はセクシーで若うて美人」

「なるほど。美人ねえ」

「そう輪島の女は、一口に美人やいうても魚でいえば、

天然や。その点、都会の美人とはちよつと一味違いまつせ」

「」

「どんな風に？」

「都会の女は養殖でんがな。」

天然は養殖とは味が違います。

ハマチでも養殖は、イワシの味してまつしやろ。えさはイワシでんがな。

天然のはまちは身がコリコリしまつて問題になりまへん。

輪島は、女も天然。

魚も天然。

静かなええまちでっせ」

「なるほど」

「先生やったら、原稿の仕事もはかどりまつせ。それに

絵かて、ゆつくり描けまんがな」

「そらそうやろ」



「一か月ほど滞在して絵描いてはる絵描きはんどおまっせ。先生も奥さんだまして絵描きに來なはれ」

「そら一つ一ぺんいこか?」

「××ホテルでっせ。間違わんように。それにS子とY子。」

「そないよろしか?」

天然の女は?」

「そらよろし。」

第一天然は養殖とちがって体がしまってまんがな」

「なるほど」

「S子もY子も海女してまんね。それが旦那の留守にだけ旅館で働いてまんね。海女で小さい時からきたえてまっさかい、足使うてもぐりまっしやろ。

胸、しり、ヒップ皆コリコリしまってま。

第一足のつけ根がしまりまんがな。

そら、すこおまっせ。よっぱどしかりしてんとはじき出されま」

「なるほど、」

「それに、よがり声がよろしおまっせ。

海にもぐって肺活量が大きなってまっさかい、彼女らの息の長いこと。

野生的で、情熱的で、都会の人工餌で育ったフワフワ体の女とはえらいちがいでっせ。

そら一ぺん抱いてみなはれ」

養殖、天然の区別は魚だけかと思っていたら、今や、女にも養殖と天然の区別がある世の中になったのだ。

アユも天然は身をひるがえして滝を登るといふ。

天然の女も、あるとき、

「登る、登る、」

というのだろうか?

ぜひ一度、たしかめてみたいものである。

ひっと・いん



★JBA神戸支部20周年

日本パーテングダー協会JBAの神戸支部が20周年を迎え、9月10日生田神社会館で、記念パーティを開く。支部長は榊晴夫、副支部長は中田敏幸、安福敬之さん。会員は賛助会員を含めて140名。

伊勢功一ショーと賛助出演に望月美佐、藤間緑寿郎、東仲一矩、小曽根実、堀郁子、松本幸三さんら。会費3千円。



支部長 榊晴夫さん
事では増村良雄さんで、20周年の歴史を創るのは並大抵の

向上のための技術磨研を人れこれを機によりプロ意識の向上のため努力したいし新しい世代の人達が誇りを持って働けるようにしたい」と語る。

(お問合せ) キャンティ北店・神戸

市生田区北長狭通2-3 電話3313661
★落ち着いたアットホームな雰囲気

フラワーロードのKIMビル地階に、ビジネスマのオアシス「らいりん」がオープンしました。シックなインテリアがゆったりとしたスペースの中に映えモーニングサービス、ランチタイムにはボリュウムのある食事、夜には軽くドリントと揃ったお店。

午後2時から5時に来店



ママの加藤悦子さん

の女性には割引チケットをプレゼントします。

東門筋のスタンド「らいりん」もよろしく。

電話25112205

8:00AM~9:00PM日祝休

★スイス菓子のハイジ

荳屋店9月20日OPEN

「ハイジ」の前田昌弘さん

(本店) 水道筋 電話4466 六甲店 電話2640 が、9月20日



前田さん
国鉄荳屋駅前待望の珈琲

のないカフェ「ハイジ荳屋店」を開く。オープンする荳屋店は、ワインと紅茶でスイス菓子とチョコレートと、と新趣向。オープン前にスイスから輸入した護送車にドイツ文字でお菓子名を描いて街を走りドギモをぬいている。灰皿や、マツチに西村功画伯のデザインを企画するなど、なかなか粋なもの。

★バックステージが

ポトルキープのサービス

レンガを基調にした店内夜にはピアノとベース、そして女性ヴォーカルのライブが快く響く、三宮・サンロイヤル10階のピアノホール「バックステージ」(電話33210260)では、オールドキープがいともなら4800円のところ、神戸っ子9月号をご持参のお客様に限り2400円に致します。

●神戸うまいもん

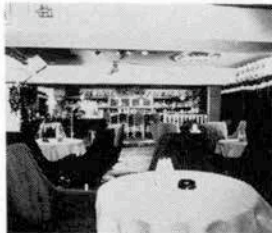
とドリンキング

ラウンジ

コンパス

荳合区二宮町三丁目大西ビル2F 電話24211236

阪本完二さんのハモンド演奏があり、料理があり、そしてムードあふれるラウンジとして人気のコンパスが開店して一周年。これを記念して9月30日(土)に今や人気実力ともにナンバーワンの女性ジャズヴォーカリスト、中本マリと人気上昇



中の甲斐恵美子ピアノトリオを迎えてのパーティを開催。食事付きでフリードリンク制。第一部7時、第二部9時半。会費は男性が8000円、女性性が7000円。

秋の宵、恋人と一緒に魅力のジャズヴォーカルの流れるなかで楽しんでみてはいかが。

Hat dog



なんすい

軟水のCoffee 味、また格別。

営業時間 午前10時～翌午前2時



コーヒーハウス

ハットドッグ

神戸酒類販売株式会社 1F
バス停〈中山手1丁目〉南側角
☎ (078)321-1689

ゴージャスなムードと手づくりの味



喫茶館

英国屋

神戸市葺合区磯上通8丁目1-1
TEL (078) 251-4562
8:00A.M.～11:00P.M. 無休

精神分析専門クリニック オープン

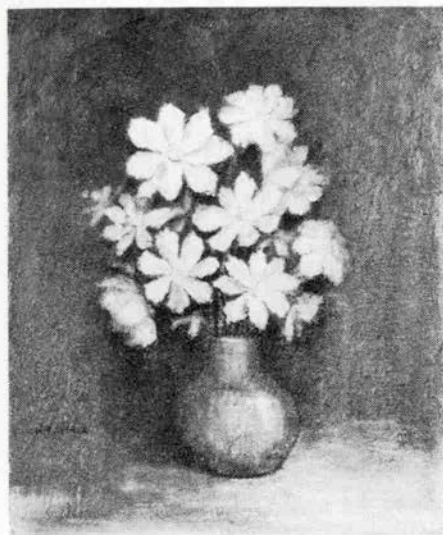


恐怖症・ヒステリー・神経症で
お悩みの方、ご相談ください。

- 時間予約制
- 自由診療です

中本精神分析クリニック

医師 中本 征利
尼崎市東園田町8丁目110-16
(阪急園田駅東へ250米)
TEL (06) 491-1416



画・木村文俊

9月のギャラリーご案内

■ 9.1 / 金→14 / 木

木村文俊近作展

■ 9.16 / 土→30 / 土

吉見敏治近作展

SALON & GALLERY

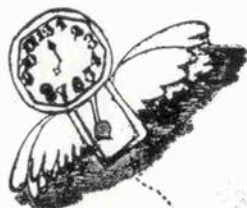
神戸時代

神戸市生田区中山手通1丁目28
モンシャトーコトブキビル1F
TEL. 078・242・3567

日・祝休み TEATIME AM11→PM5
DRINKTIME PM6→AM0

● 北野坂のほとりにある小さなサロン神戸時代。このサロンから新しい時代の波を

神戸百店会
だより



★元町通りの夏は

HOT&COOL

熱い街もどまち。

日リオのカニバル選抜のサンパチム35名が元町本通りに繰り込んできた。アペラルド・コインブラ・デ・フィゲレドさんを団長にミスカニバル、サンパ歌手ローズ・メリーさんなどスター揃いの一行はブラジル移民70周年を記念しての親善訪日団である。元町



これがサンパだ

通りを踊りながら行進する迫力ある本場の

のサンパ、熱気と活気がまわりの商店の人たちも買い物客も巻きこんでビバ・ビバ・サンパ!夏の暑さも顔負けの熱い元町通りだった涼しい街もどまち。お次は冷んやり氷の話題。8月5日午後、大丸前から元町3丁目にかけて大きな氷塊

が道の真中、いたる所に出現。おやおとと見ている間にニューポートホテル、オリエンタルホテルなどはじめ阪神間のホテルのcock



見るは涼し作は暑し

さんたち約60人ののみや鋸の下から「雷神」「宝船」など氷の彫刻。夏休み中のせいか子供たちも多く、見るからに涼し気な彫刻に大喜び。もちろん大人も大喜び★皮の専門店がオープン国際会館1Fのバラエティショップベニーの隣に皮専門のバラエティショップベニーがオープン。こ



これがバラエティショップベニーのスタッフです

ト、パンタロン、ジャケット、スカートなど洗える皮が素材。同じ素材で可愛い色(8色)のスニーカーもあります。「男の中の男」のコーナーもあって野性を感じ小物がいっぱい。一度のぞいてみて下さい。

★レストラン「鳴門」は

海の幸がいっぱい

ニューポートホテル11Fの回転レストラン「鳴門」では新鮮な海の幸いっぱい「ダイナ」潮騒で食欲の秋を募り。小海老とパイアのカクテル・スーパ、海の幸盛り合わせグリル(車海老・鮑・鯛蟹の爪肉・鮭・貝柱)若布のサラダ、パン、コーヒーのコースで6000円です。9月30日迄。



海の幸いっぱい潮騒ダイナ

「鳴門」のダイナ1券を毎月2名様にプレゼント。9月20日迄に「9月号ダイナ1券希望」と御明記のうえ、〒650生田区東町113-1神戸つ子ダイナ1券係までお申し込み下さい。発送をもって発表にかえさせていただきます。

●ショップトビックス

★9月の六甲はもう本格的な秋。六甲オリエンタルホテルの秋の宿泊プランは「爽」。さわやかな秋の六甲をお楽しみ下さい。1泊2食(夜はジジスカン)つき(税サ)で7000円。お2人様より予約受け付けています。電話891-0333六甲オリエンタルホテルまで。

★北野クラブで結婚披露宴をなさいますか? シルバ15000円、ゴールド65000円、パール8000円、ダイヤモンド10000円の4つのコースからお選びください。どれもが北野クラブ自慢のフランス料理です。また結婚1周年記念日にはお2人をダイナにご招待という特典つき。美容師、写真、印刷物、引出物なども手配してくれます。お問い合わせは電話31-2251北野クラブまで。

★そろそろ毛皮のことも考えましょう。9月25、26日ベニー毛皮店の毛皮のファッションショー。風月堂ホールでこの冬、最新の毛皮情報を披露。当日は整理券が必要ですので電話221-3327ベニー毛皮店までお申し込み下さい。

★コマツヤのファッションショー9月9日(土)オリエンタルホテル2Fで、3回「秋・ロマンとの触れあい」をテーマにロマンティックなドレスの数々をご紹介します。展示会も開催しております。

★恒岡田崎真珠の秋の展示会は9月19日・21日オリエンタルホテル★ベニヤエルベにこの秋から、アメリカのデザイナージョー・フリーの商品が入ります。スポーツテイで若いデザインです。

★花隈松の家の女将、鶴殿シヅさんが7月17日の早朝御炎で亡くなりになりました。享年84歳。心よりご冥福をお祈り致します。

ポケットジャーナル



★華やかにファッショ
ン・ショウ
マンズリーがオーブン
秋の訪れとともに、今年
も「第2回ファッショ
ン・ショウ」が開かれる。
主な催し物は次の通り。



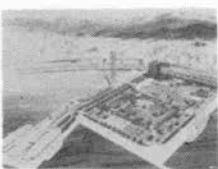
コウベ・ファッ
ション・ショウ77

ハショウ部門▽
コウベ・ファッショ・ショウ78
9月9日(土)2時、6時 神戸国
際会館、二千人、主催/神戸市は
か。コウベ・ファッショ・デザイ
ン、神戸マイファッショ各部門の
上位入賞作品発表。
KFA、関西の総合学院、日本
真珠振興会、日本真珠輸出組合によ
る「78秋冬、神戸のオリジナル作
品の発表。
「78秋冬ジバンシィ ヌーベルプテ
ックコレクション
9月9日(土)3時 大丸神戸店2F
「78秋冬のジバンシィのプレタポル
コレクション
「78秋冬大丸婦人服フロアショウ
9月14日(木)12時30分、2時、3
時30分 大丸神戸店2F
ラミューズ、アラン・ラルーのファ

ッション・ショウ
オータム・フェア
9月15日/10月1日の間の土、日、
祝日、三菱ファッショパーク広場
シャンソン、カンツォーネを中心
にした秋のファッショナブルコンサ
ート(出演者未定)
あなたが主役・ふくよかレディス
ファッショ・ショウ
9月15日(金) そごう神戸店3F
Lサイズ女性の消費者、外人参加の
ファッショ・ショウ
ジョイブラザ「秋冬ファッショ・
ショウ
9月16日(土)1時、3時30分、ジ
ョイブラザ3F市民センター
ジョイブラザ名店会による「秋冬フ
ァッショ・ショウ
「78新作紳士婦人毛皮ファッショ
ン・ショウ
9月26日(火)
神戸風月堂ホール 主催/ベニー毛
皮店
新作毛皮のファッショ・ショウ
ハ展示部門▽
KOB産業展 生活文化と未来
をひらく企業と市民のひろば
9月16日(土)19日(火) サン
ボートホール全館 主催/神商議
会、神戸商工会議所 〇〇年記念の歴
史資料の展示
。地元企業紹介と企業姿勢、発展方
向の展示
。神戸市、兵庫県の長期ビジョンの
展示
。神戸、兵庫の特産品の展示即売
。トータル・ファッションの展示

KOBE FASHION SW
ET FAIR 1 地場産業まつり
9月21日(木)12時(水)さん
ちかタウンインフォメーションギ
ャラリー 主催/神戸市
「神戸の洋菓子」を実物、パネルな
どで広く紹介
コウベ・ファッショ・デザイン・
コンテストの入賞作品展
9月12日(火)17日(日) 神戸三
越1F、B1F、主催/神戸市ほか
。ハイファッションの部/ドレス4
点とデザイン画9点
。マイファッションの部/ドレス5
点とデザイン画15点
。その他▽
角川春樹講演会「野性への挑戦」
9月12日(火)6時 一五〇円
神戸国際会館大ホール 主催/KF
B角川書店社長角川春樹氏による特
別講演会と「野性号の航海」上映。
KKFファッションサロン
9月18日(月)1時 オリエンタル
ホテル大ホール。無料(整理券要)。
講師/大内順子、浜野宏

★夢のある波止場再現実



中突堤完成予想図

メリケン波止場再開発
中突堤からメリケン波止
場の約23ヘクタールを「ミ
ナト神戸の再発見」を基
本テーマに再開発しようと
いう案が、神戸大学の嶋田
勝次教授を中
心に文
化、行
政界の
代表者
26人の
委員ですめられている。
港を流通機構としてだけ
でなく、市民に親しまれる
港にしようというのが特徴

誕生日
ありがとう
運動



あなたの愛の手で
古切手に新しいいのちを!!
みなさん、九月は精神薄弱者愛
護月間(精神三団体の主催で総理
府・厚生省・文部省などの後援)
です。ちえおくれの子どもたちが
偏見や差別がなく、みんなと共
に生きる社会づくりにご協力くだ
さい。

ちえおくれの問題の社会啓発を
やっているわたしたち「誕生日あ
りがとう運動」では、運動推進の
費用とするために、古切手(使用
済の日本、外国どんな切手でも)
の収集をしています。
あなたの会社や家庭で、古切手
が捨てられていませんか?
古切手の周囲約一センチほど残
して切りとって、三の宮国際会館
一階の郵便局の前にある本運動事
務所へ、お持ちくださるか、郵送
していただませんか。本運動参
加のカードを送ります。

全国各地から、毎日たくさんの
切手が送られてきます。
あなたも、あなたのまわりにあ
る古切手にハサミをいれるとい
う行為を通じて、なにげなく捨て
られていた古切手に、新しいいのち
を手えてください。
そして、みなさんのあなたがい
心を集める福祉のこの運動にご
参加くださるようお願いいたし
ます。

誕生日ありがとう運動本部

神戸市真谷区御幸通八一六
神戸国際会館一階の郵便局の前
電話二五一八二六(内線三一六)

“へそだんご”とは、生田神社に古くから伝わる粋な神饌、つまり、神と人との出会



加藤隆久さん

の会場
の場
をつく
る供え
物であ
り、ここから祈りや願いが
生まれ出る。

この一巻は、加藤さんが、ここ10数年間に新聞や雑誌、会報などに発表した随想をまとめたもので、57篇が収められている。

「つれづれなるままに雑拙な文章で綴った短文を集めたものではあるが、この書の中から私の祈りや願いの一端をおくみとりいたただ



新井満さん

井満の4弾のお話です。9月21日にキングレコード「アライマンの体験的女性論」を巨曲「ミ

花時計



「8の会」という集い15年前の8月8日に文人の集い「8の会」が始まった。藤本義一（サントリー）吉田稔郎（元具体美術）の2人が仕掛人。もとを正せば、サン

トリーがビールを発売したので、その試飲会でありP・Rのために仕組ま

ければ幸いである」という加藤さんの人柄がにじみ出た好書である。

京都・同朋舎刊。2800円

★マンダーランドへの誘い

女が強くなりました。もうガマンできない逃げだそうという男性方に、南の海の孤島マンダーランドへお誘いしましょう。

といってもこれは神戸のシンガーソングライター新井満のLP第4弾のお話です。9月21日にキン

レコード「アライマンの体験的女性論」を巨曲「ミ

れた集いであつた。が、この集いは不思議なこと

に目的を超えてしまったこの集いの会場は小原流家元会館の芝生のあるガーデンに定着した。

司会は竹中郁先生が勤められた。勿論、楽しみながらやられているので何となく、竹中郁を囲む会の様な雰囲気がある。

例年の集いには、小磯良平ご夫妻、朝比奈隆、陳舜臣、田辺聖子さん達奈良本辰也、八尋不二、奥田東さんなどの京都勢大阪からは小野十三郎、

スターバールン「ケラランパサランのパレード」原色日本昆虫図鑑「たそがれの紺碧海岸」など、理想の女あり、魔女あり、恋人あり、母あり、妻ありと、多彩に

こんなにもモテタノカといぶかるほどの体験曲で、逃げだしたい男性にもモテたい男性にもおすすめ盤。女は「目をして」聴くとよい

の。どうせ逃げだしたって帰ってくるんやから……。

9月23日にレストランパークで「マンダーランドパーティー」を開く予定。会費はLPつきでなので、たべて5000円。

078(33)2246 神戸っ子まで

大銘時生、木村重信さん

常連の中西勝、元永定正津高和一さん等、去年からは宮崎市長も顔を見せ

側になっている佐治敏三小原豊雲さんも出席されている。京阪神の文化人の集いになり深味のある交歓の出来る集いにな

った。いまは亡き吉原治良さん古林喜楽さん小林芳夫も常連さんであつたいま、京阪神の人達が集う会というのは、この「8の会」だけだろう。

△Y△

●KOBE POST

★昨年に引き続き恒例の阿波踊りに、8月15日の最終日「カモメ連」が、神戸・大阪・東京のメンバー74名で参加。団長はカモカのおちゃん（川野純夫さん・田辺聖子夫妻、たかはしちう、島京子、今岡道子、花柳芳恵子、岡安喜子、藤本ハルミ、久保田武田中喜夫、上植青二、加藤嘉子、田中実穂、小泉正己、小泉美喜子などの神戸勢が踊るアホウに加わりました。

★神戸二紀の小西保文さんが8月6日スタート。パリからスペインへ、待望の旅立ちです。

★田藤新さんが作品集を月中旬に出す。第1回神戸文学賞受賞作「島之内ブルース」、本誌連載の「シルブランの神々」収録。

★エステイションの月乃桂子さんが「ゲイラク美容」に続くヒップ作「素晴らしいプロポーション」をアロー出版より発表しました。

★日本専売公社神戸営業所の辻村昌治所長がマニラに栄転。武田洋文所長が着任されました。

★ローズガーデンで「ぎやるもん」を営む前川清明・治美さんが転居。〒550神戸市生田区北野町2丁目32ノ11番(34)0559

★神戸出身の邦楽家今藤尚之さんが転居されました。〒154東京都世田谷区松巻一ノ四八(34)0535

★鼓の名手藤倉昌悦さんの京・先斗町の自宅が失火にあいこの程移転。〒100京都市中京区金座通惠川上る亀屋町 シャトーはな2F

★西村功画伯の長男、西村泰利さんが大阪で建築設計室を開かれました。〒552大阪市淀川区西中島3丁目16ノ8番(34)0450

アトリエ 〒653神戸市東灘区鴨子ヶ原3ノ28ノ11番(34)3065

神戸文学賞 神戸女流文学賞 作品募集

小社は昭和五十一年創刊15周年記念として神戸文学賞および神戸女流文学賞を創設いたしました。有為の新人に新しく道を開くとともに、西日本における文学活動のいっそうの発展のために微力を尽したいと願っております。第一回神戸文学賞は田磨新「島之内ブルース」、同女流文学賞は小倉弘子「ベットの背景」に、また、第二回神戸文学賞は奥野忠昭「姥捨て」、吉峰正人「生活」の二作品（同女流文学賞は該当作なし）と決まりました。ここに第三回文学賞を公募するにあたり、多数の意欲的御投稿をお願いするとともに清新かつ強力な作品の出現を期待する次第であります。

〈募集要領〉

- 一、神戸文学賞は男性作品、神戸女流文学賞は女性作品とし、いずれも小説で、共に西日本在住者に限ります。
- 一、応募作品は未発表原稿、または締切以前、一年未満に発行の同人誌に掲載したものに限ります。
- 一、原稿枚数は四百字詰百枚前後。
- 一、原稿には住所、本名、年齢、職業、略歴を明記し、四百字程度の作品主題（創作主旨）をつけて下さい。
- 一、締切りは九月一日（当日消印有効）
- ☆なお、選考は本誌が依頼した選考委員によって行います。
- 一、入選発表は本誌昭和五十四年新年号誌上。同号より作品を掲載します。
- 一、原稿の返却、選考経過などに関する問い合わせには応じかねます。
- 一、入選作品の著作権は本誌に属します。
- 一、入選作品各一篇には副賞として賞金二拾万円が贈られます。
- 一、原稿の送り先、お問い合わせは、神戸市生田区東町一―三の一 大神ビル七階 月刊神戸っ子「神戸文学賞係」まで。
- 電話〇七八―三三一―二二四六

主催／月刊神戸っ子

姥捨

〈最終回〉

奥野 忠昭
え・題字 犬童 徼

「ほっておいてくれていい」

ベッドの中から母が言った。

「だいたい、かたづけておくれよ」

「それより、ここ、ちよっとみてくれへんか」

母が言った。ぼくはそれを無視して家具類をかたづけた。母が嫁入りのとき持ってきた古いタンスをかたづけた。まんなかの箱が重いので涼子を呼んだ。

「いいわね、やっぱり古いものは」

涼子が言った。これが今までの涼子の言葉で母をいばん喜こばしたことばだった。

「当時、いちばんいい値だったんです」

ベッドの中から母は叫んだ。

「そうでしょうね」

母にも若いときがあったのだ。これを買ったときの晴れがましい気分を思った。きつと未来に大きな可能性を見ていただろう。こんな老いの姿を想像もしなかっただろう。ぼくもすでに人生の折り返しに近づいている。だのにまだどこかで未来の可能性を信じている。もっとちがった人生が開けるのではないか。母の寝姿がそれをあざ笑う。おまえもわたしのようになるだけさ。

「わたしにはタンスなんてものはないわな。やっぱり嫁さんになるにはタンスなんているんやろか」

「いらぬ、いらぬ、ないほうがすっきりしていい」

「タンスも持ってこん嫁さんもらってとおかあさん思っ
てんでしょうね」

涼子は耳元で言った。

「タンスなんて大嫌いさ」

ぼくの声は大きかった。母に聞こえただろう。

「いつみてるんやいいね」

母が言った。ぼくはベッドのそばへ行った。母はブラウスのえりを開いている。中から乳房が覗いている。腋もなくみずみずしい。女は軀のあらゆるところが萎えても、乳房だけは生々しい。乳房の間に肋骨が見え、そこが鼓動している。

「少し速いな」

母は緊張した顔をゆるめ、ふっと息を吐く。

「手を置いてみてみ」

ぼくは手を動かさない。前にもこれと同じ光景が何度かあった。心臓が止まりそうや、止まりそうやねと母が叫び、ぼくがあわてて手を置いたことがあった。粘っこい膚さわり、その奥から流れてくる熱さを今でも覚えていいる。あれはよくなかった。その後、すべてうまくいかなかった。母の呪いのようなものだ。

涼子がそばへきて、ぼくがどうするのかじつと監視していた。

「ちよっと見てやってくれないか」

涼子が手を伸ばそうとすると、母はそれをはねのけた。

「親の脈も見られんのかね」

「見なくてもわかるさ」

母は寝がえりをうち、ぼくから顔をそむけた。はあは

あと苦しそうな息を吐いた。

「お医者さん呼びましょうか」

「いいえ、このままじっとしてたら直ります」

「たいしたことないさ」

「大丈夫やろうか」

「大丈夫、大丈夫」

涼子が心配したので、母は少し落ちついた。涼子は肩を落し、目の移動をやめ、下をむいたままになる。

「あなた、今晚、泊ってあげたら」

ぼくを覗き込み、表情を探る。ぼくは返事せず、台所のテンプルに坐った。

「お風呂わいてるわ」

涼子はヒステリックな声を出す。大またで用事もないのに部屋中をうろうろ歩く。腕を組み、つりあがった眉を、さらにつりあげる。

「孝、入れ」

「いっしょに入ろうか」

涼子がさきの上着をぬぐと息子も素直に後に続いた。

「けがしたところ、注意せんといかんよ」

母が言った。

「ええ、わかってます」

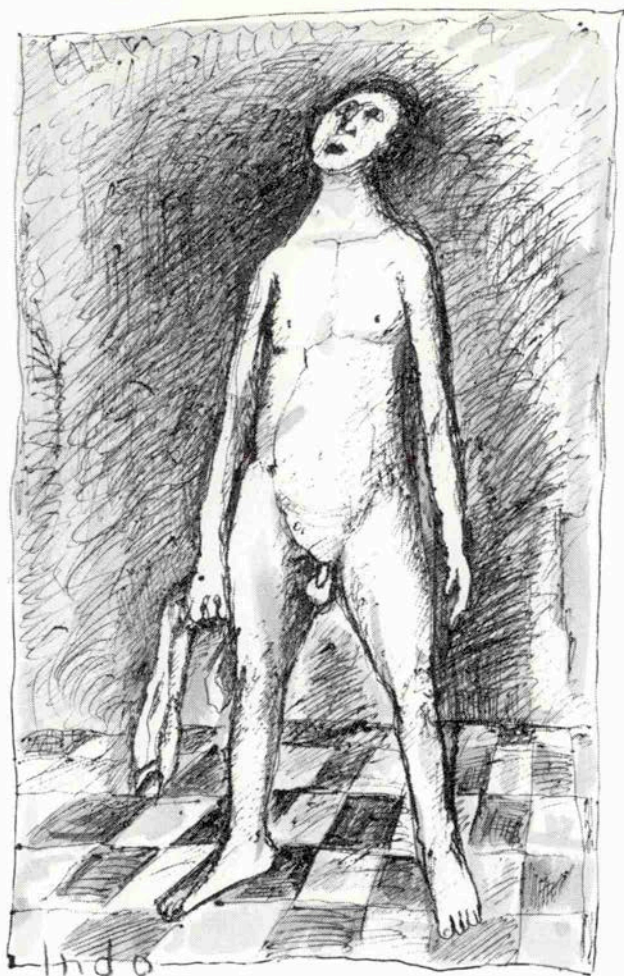
涼子が答えた。ふたりは風呂に入った。しばらくして笑い声が聞こえた。とくに息子の笑い声は陽気だ。風呂の中でふざけあっている気配がうかがえる。涼子も息子にひどく気を使っただなと思う。母はその声を耳を澄まして聞いている。

「ママー、ママー」

息子は笑いながら何度も言っている。

「おばちゃんでもいいのに」

母が言う。しばらく笑い声が続いたのに、それが突



然、泣き声に変わった。母はベッドから身を起こし、風呂の方を睨みつけた。眼が藍色に見える。

「なにしたのかね」

「ふざけてたんだらう。きつと」

「あの人、ちよつとおかしいのちがう」

「なにを言うんだ」

ぼくは声を荒げた。

「ヒステリーなんだよ、きつと。アル中の気狂いかも」

「聞こえるじゃないか」

「大丈夫かい、あんな人に孝をあずけて」

「ぼくのやることにけちをつけないでほしいな」

息子はまだ泣き続けている。涼子は何も言わない。はやく泣きやましてもらいたいものだ。でないと母はまた何を言うかわからない。ぼくが風呂場へ顔を入れると、息子は眼を擦っていた。涼子は気持ちよさそうに湯ぶねにつかっている。乳房がゆれ、乳首が花びらのようだ。

「どうしたんだい」

「継子いじめしてると思ったでしょう」

「そうさ、驚くじゃない」

「口と眼に水が入ったのよね」

息子が頷く。

「ね、ね、継子いじめってなに」

「そうね、ママみたいな人が、あなたみたいな子をいじめること」

「どんなことして」

「わかんないな」

「ママもするの」

「さあ、するかもね」

「ほんと、ほんと」

「するぞ、するぞ」

涼子はまた息子に水をかけ始める。しぶきがぼくの顔にあたる。息子は泣きながら笑う。彼も、湯どのへ手をつつ込み、涼子の顔にいちめんに湯をかける。髪の毛まで水びたしになる。

「さあ、もう出るよ」

息子はそのまま外に出て、タオルで拭く。涼子は湯ぶねに浮いている自分の乳房を握る。軽く擦する。いい気持ちよと言う。子どもに聞こえるではないかと言おうとしてやめた。涼子とぼくの間に子どもを介在させたくない。

「入ってこない」

ぼくはてれ笑いをするとまどう。

「ママがこわいのね」

涼子は舌を出して、顔をしがめてみせる。

「あの子、わたしのおっぱい握ったのよ」

ぼくは涼子のアパートでいつもいっしょに風呂に入ったことを思い出す。お互に水をかけあいながら、自分についているわずらわしい垢がはがれ、幼児の膚になっていくような気になった。ぼくたちがお互に垢をつけあうようになればもうおしまいだ。再び洋子との関係へすべり落ちていく。

ぼくは思いきって、上着とズボンをぬいだ。

「おかあさんのより大きいって」

「よかったね」

「よかったわ」

ふたりは笑いあった。息子が扉をあけ、ぼくたちの笑いを覗きにきた。エッチ、エッチ、涼子が叫び、息子は笑った。ぼくは母の気配を感じた。ベッドの中で、怒りの眼差しをこちらに放っている母の臭いを嗅いだ。

母は夕食を食べなかった。頭からすっぱりふとんをかぶり、そのへりをしっかり握っていた。ぼくたちが風呂からあがってから母は一言もしゃべらなかつた。

涼子も息子もぼくも、黙々と夕食を食べた。だが、何を食べても、ほとんど同じ味だった。洋子のときと同じだ。まったく変わりが無い。いったい何がこんなふうにするのか、ぼくのどこが悪かったのか、ぼくにはわからない。これはいたしかたのないこと、必然のできごとなのかもしれない。

涼子も息子もどんなことを考えながら食事をしているのだろう。ぼくは時々、彼らの方を見ながら食べた。

「そうだわ。ビールを飲むの忘れてた」

涼子の顔が輝いた。拝むような手つきを少し椅子から飛びあがった。息子は彼女の変貌ぶりに驚いて、彼女の顔をまじまじと見ていた。

「やらかそう、やらかそう」

ぼくはすぐに立ちあがって冷蔵庫からビール二本をとってきた。コップにつぐ音は爽々しかった。あらゆる猥雑なものをそこに溶かし込んでくれるような気がした。ぼくたちはコップを合わせて飲んだ。よく冷えた液が、

軀の中でも、猥雑なものを溶かしてくれた。おいしい、おいしいと連発して飲んだ。母はいっそう怒りの感情を抑えつけているだろうが、ぼくは意にかいさない。

「ね、ね、ぼくにもちようだい」

息子が言った。

「ばか、子どもの飲むもんじゃない」

息子は頬をふくらませ、曇った顔付をした。

「いいじゃない、少しぐらい」

涼子は少し入れてやった。息子はそれを飲んだ。顔をしかめ、眼を糸のように細めた。

「にがいだろう。やめておけ」

息子はこんどは自分でコップ一杯についだ。

ぼくが止めようと思う瞬間、水を飲むように、全部口に流し込んでしまった。

「おいしかった」

涼子が言った。息子は頭をふった。

「だめじゃないか、子どものくせに」

ぼくが言った。

「苦くたって、飲みたいときがあるのさ」

前に涼子の言ったことを口まねした。

「そうよね、そうよね」

涼子は息子の肩をさかんにたたいた。

「ぼくだって、気をつかってんだから」

息子は気をよくし、胸を突き出して言った。涼子は何杯も何杯も飲んだが、ぼくは飲めなかった。母のふとは一度大きく動いたが、その後は微動だにしなかった。

涼子はすぐに後かたづけを始めた。小声で歌を唱った。でも、その歌声の裏に悲しさがあった。足をふらかせながらも手はすばやかだった。すぐに終わった。

「さあ、帰ろうか」

ぼくは立ちあがった。

「あなた、ここにとまったら」

「大丈夫だろう」

ぼくはちらっと母を見る。母は動かない。まるでそこ



に死体が置かれているようだ。

「孝ちゃんもとまったら、おばあちゃんといっしょに寝たいでしょう」

息子は首を振った。それはなんの躊躇もない確固としたものだった。母もぼくも涼子も見ない。ただ自分を見ているようだった。

「氣をつかったらあかん。ほんとのこと言いあおう」

「ぼく、帰るよ。あそこにはぼくの部屋があるもん」

母は噴然とふとんをめくり、軀を起こした。立ちあがり、ベッドのそばの風呂敷包みを解いた。中から、すすけた父の写真と位碑が出てきた。母はそれを持ち、よける足で、黒檀のタンスの所へ行き、その上に置いた。軀が揺れ、タンスにつかまった。タンスは音をたてて震えた。軀が崩れ、畳の上にうずくまった。涼子とぼくが抱きかかえて、ベッドへ寝かした。母はあえいだ。乾いた息がぼくたちに降りかかった。はだけたえりから乳房がのぞいた。乳房には艶がなく、皺が無数に走っていた。干し上げられた果物、棄てられた布切れ。ぼくは家のすぐそばの墓地を思った。三十とてない崩れた小さな墓石、陽に晒され、ぼろぼろ落ちた曼陀羅模様の表皮。農薬で枯れた褐色の雑草、苔まで枯れた早魃の地表。母の膚はその風景に似ていた。

「ね、泊ってあげたら」

涼子は消えているように言った。

「大丈夫さ」

ぼくが言った。

「わたしひとり帰るから」

「大丈夫だよ」

母が言った。

「もう、孝を寝かす時刻だ」

「まだ眠くない」

息子は元氣よくそれを否定した。

「さあ、帰ろう」

ぼくは立ちあがった。

「大丈夫かしら」

「大丈夫さ」

たとえ、母が今晩ひとりで死んだとしてもぼくは悔やまない。死とはすべてひとりいくものだ。それはいずれぼくをも襲うだろう。そのとき、ぼくはひとりで母をつぐなうだろう。

母は眼を開いている。眼珠を動かさず天井を見つめている。じつと自分の中から生まれてくる感情を締め殺している。

「わたし帰るわ」

「帰ろう」

「心配しなくていいよ」

母は天井に向かって言った。

「じゃ、明日きますから」

涼子が言ったが、母は何も言わなかった。ぼくは息子の腕を掴み、扉を開いた。先に出た涼子がすでに階段を下りて、道を歩いて行くのが見えた。ぼくは息子の手を引きながら階段を下りた。音が鳴った。途中で止まり、空を見た。月が出ていたが、それは空にできた傷に見えた。その傷に向っていく男が見えた。それはよれよれの背広を着たあの男だった。

△了△

筆者紹介

□奥野忠昭△作家▽



作品「煙へ飛翔」で日教組文学賞を受賞。同名の作品集が昭和47年に一ツ橋書房より刊行されている。一貫して教育の場を舞台に作品を展開して来たが、第二回神戸文学賞受賞作品「絶捨て」で新境地を開いた。現在、大阪教育大学附属天王寺小学校で教鞭をとるかわら、同人誌「らくたいむ」などに作品を発表している。「絶捨て」以降の成果が期待される。

□大童 徹△二紀会々員・神戸二紀所属▽



ブルーの色調で「騎手と馬」を長年テーマに描き続ける具象派の画家。昭和43年より二紀展に出品し、52年に「ランプの上にハトが」で会員推荐を受ける。現在大阪教育大学助教授で、毎年東京のきょうりゅう倉井で個展を開催。さし絵は今が初体験で奮闘していた。神戸「二紀野球チーム」を背負う迷フェーリストでもある。東京芸大油絵科卒。熊本県出身。



夜ともなると秋らしさの感じられる季節。初秋の宵に、気心の知れた面々が、いつもの“はなせ”で会いました。はずむ話に夜が更けて行きます。

左より横田さん（安田生命神戸支社）、ふーちゃん、石川さん（田中工業株式会社専務）、ママ、田中さん（田中工業株式会社社長）、大磯さん（安田生命神戸支社）、前澤さん（安田生命神戸支社所長）のみなさんです。

花世

古川 和枝

神戸市生田区中山手通1丁目74
荒神ビル6F ☎391-4116

